

兼業メーカーと一般用医薬品メーカー

兼業製薬メーカー

●この会社に、どうして製薬部門があるの？

第二次世界大戦が終戦。日本社会は医薬品が深刻な不足状況でした。厚生省(原厚生労働省)はペニシリン製造に関する委員会を設け製造する会社を募集。食品・醸造・繊維などの会社が名乗りを上げ、それぞれの会社が持つ技術を投入して戦後の医薬品製造に協力したのです。医薬品の兼業メーカーが多いのはそのためといわれます。

事業拡大を狙う製薬業界進出のように見えますが、兼業メーカーは戦後の特殊事情から誕生したものです。

●兼業メーカーには大規模な企業が多い

製薬会社には、本業をほかにもつ兼業メーカーといわれる会社があります。その規模は、製薬専業の会社の業績を大きく凌ぐ会社があります。また知名度は低くても評価が高い会社もあります。

評価方法の代表例として日本経済新聞が行う企業ランキング「NICES」がのびます。投資家や消費者・取引先、従業員、社会、潜在力のそれぞれを評価したものです。そのデータは日経就職ナビでも公表されています。

2015年と2014年の企業ランキング「NICES」を下に示します。

○総合企業ランキング「NICES(ナイス)」(2015年・日経新聞社)

<http://www.nikkei.com/markets/kigyo/meigara.aspx?g=DGXMZO9443641026112015905M00>

○総合企業ランキング「NICES(ナイス)」(2014年・日経新聞社)

<http://www.nikkei-r.co.jp/domestic/management/nices/?151127a>

中でも「従業員得点」が高い会社は、従業員(社員)が働きやすいと評価するもの。参考になるかも知れません。

一般薬(OTC)メーカー

●TVコマーシャルでよく見る = 知っている会社？

医療用医薬品を専業とする会社は一般消費者との接点がありません。業界で存在が欠かせない会社でも、就活するまで社名を知らなかったという会社はたくさんあると思います。

一方で市販薬、一般用医薬品(OTC薬)を販売する会社は、テレビコマーシャルで商品をアピールします。風邪薬など一般薬やドリンク剤、健康食品など様々なテレビコマーシャルを通じて社名の認知度が高くなります。

就活では、地名度が高い会社を「よく知っている会社」と誤解しがちです。しかし知名度が高くてどんな会社なのかは分かりません。しっかりした企業研究が必要です。

●医療用と一般用医薬品メーカーの垣根は低い

一般用医薬品を扱う別会社を設置する会社がありますが、医療用医薬品と一般用医薬品の両分野に関係する会社があります。製薬業界トップクラスの企業でも一般用医薬品を販売しています。内資系・外資系のどちらの製薬企業とも一般用医薬品を扱う会社が多いと思います。

医療用医薬品分野で消化器系を製品領域とする会社であれば、商品も消化器関連になるなど医療用と一般用医薬品は関連性をもつ会社が多いようです。また医療用医薬品の分野では中堅でも、一般用医薬品では業界トップクラスという企業もあります。しっかりした企業研究が必要です。

一般薬業界団体のサイト

●日本大衆薬工業協会

<http://www.jsmi.jp/>

●東京家庭薬工業協同組合

<http://www.tokakyo.or.jp/>

●大阪家庭薬協会

<http://www.daikakyo.ne.jp/>